



2010年6月発行
(平成22年6月)

千葉県立匝瑳高等学校
同窓会事務局

〒289-2144 千葉県
匝瑳市八日市場イ-1630

TEL.0479-72-1541
FAX.0479-73-6146

代表：川口明和

定例総会6月27日(日)開催

呈茶席 9:00より 総会・講演 10:00より

講演「阪神・淡路大震災、新潟中越地震での
鉄道の被害と復旧」 講師 石橋忠良さん(高18)



本年の定例総会は、六月二十七日(日)に開催される。
呈茶席や華道展により彩りを添えるのも例年通り。
また石橋忠良さんによる「阪神・淡路大震災、新潟中越地震での鉄道の被害と復旧」と題した講演を企画している。
昨年の総会で選出された川口明和会長(高17)は、若い世代の同窓会活動への参加を呼びかけ、栗田壮一総務部長とともに同窓会活動の活性化に取り組みで来られた。
この歩みは、次期会長候補の鈴木勝彦さん(高18)に引き継がれる。
更なる発展を期し、同窓会活動への提言を寄せられるようお願いする。

のびる母校 ひろがる同窓 <http://www.dosokai.ne.jp/sosako/>

「匝東会代四回

ふるさとを歩こう会(飯岡・干潟)

この秋一番の好天に恵まれて、匝東会(伊藤清会長)の秋の行事「ふるさと歩こう会」は、平成二十一年十月十七日、旭市の干潟八万石とその周辺を歩いた。前年は九十九里浜を歩いたが、今年は第四回ですっかり恒例になった。

健康指向とふるさと指向が相乗して参加者は総勢五十八名、匝東会の枠を大きく超えて現職の校長杉浦雅美先生をはじめ井上洋一元校長、山崎忠義元校長も一緒に歩いてくれた。地元「匝東会」の菅谷稔様(高10回)はじめ多くの方々

による万端の準備が功を奏して、かなり欲張った盛り沢山の「科目」を課せられたけれども、参加者全員無事にこなすことができた。科目の一つはもちろん大原幽学であるが、もう一つは文明開化・明治期に迎賓館(赤坂離宮)に国宝的名品を遺した七宝工芸作家、湊川惣助(一八四七〜一九一〇年)とその作品たちとの出会いである。旭市蛇園の農家に生まれた立志伝中の人物であったことをはじめ知ることとなった。

その蛇園を初めて歩いた。六十人ほどの高齢者の行列なれば遠慮がちに。適当な曲がり具合をもつた人にやさしいきれいな小道だった。両側は背丈の二、三倍はあるうかと思われる榎の生垣で、何代にもわたって大切にされてきた風格が具わっていた。上から見れば風変わりなフランス庭園のようでもあり、迷路のようにも見えやしないかと思われた。余計なことだが「蛇園」という地名に憚ることなかれ、蛇は嫌われものじゃなかった証拠じゃないかと思った。本当に大事にしたい村の風景を見ました。

一七〇年余り前の大原幽学と農民の様子を脳裏に重ね合わせながら、収穫の終わった干潟八万石の畦道を歩いた。広大な美田は今、蛇口をひねれば稲作に必要かつ十分な水がほとばしり出る。勾配のゆるい排水路には強制排水の備えがあつて大雨による冠水の心配がなくなった。毛細血管のように張りめぐらされた配水パイプと排水ポンプによって、早と洪水の悪夢から完全に解放されたのはそう古い話ではなかった。この大利根用水がすべての田圃に届いたのは昭和四十五年以降だった。

見れば、刈り取ったあとの田圃には水溜まりらしきものがない。水が抜かれた乾田であつた。小学生のころ、母親に手ぬぐいで袋を作ってもらいイナゴを袋いっぱい捕まえたことを懐かしく思う。かつて刈り取った田圃にはイナゴやバッタが沢山飛び跳ねていたものである。水溜まりや小さな流れにいるタニシもドジョウも小鮒もメダカも幼い子どもたちに狩り心を刺激したものでした。

目を転じてみれば、居るはずのサギ類や小鳥たちの鳴き声も姿もなかった。空高く見下ろしながら跳ぶ猛禽たちの一羽も居なかった。

静か過ぎる田んぼ、もの言わぬ「沈黙の秋」に、私はかなり感じるものがありました。

わたしは昭和十四年の生まれ、今七十歳。生まれてこのかた数知れない出会いがあつて、今の自分があるのは歴然たる事実、まるで奇跡的な存在である。その出会いの一つ、もし匝東高校へ進学していなかったら、干潟八万石を皆と一緒に歩くこともなかった、これは人生を左右するすごいこと。出会いに感謝、「随縁」の一語に尽きます。

平山 豪(高10)



第4回匝東会故郷を歩こう会 平成21年10月17日(土)

「同窓さふさ」第40号を読んで 天文気象部と気象庁で活躍した諸先輩

昭和三十八年四月、猿田小、銚子六中を経て匝瑳高校へ入学。入学式の朝は激しい雨であつたが、匝瑳高校への坂道に登る頃には、あちらこちらに水溜りが残っているもの、雨は上がつていた。正門を入ると、正面に蔦のからまる校舎と白い百葉箱、右手に折れるとヒマラヤ杉の樹間に、小さな「天文気象部」の部室。

あの部室が健在であること「同窓さふさ第40号」で知り、驚きと、うれしさと、懐かしさから筆を執る(キーボードをたたく)。

当時の部活動は「天文気象部」といつつも、気象が主体であつた。毎朝一時限と二時限の間の「定時気象観測」。台風が接近すると風雨の中で「台風臨時観測」。夏休みの一週間余りは、14番教室に陣取つての合宿。その際は、昼夜を通して三十分毎の気象観測、天気図作成の特訓、文化祭の準備、そして夏の夜空の観測。更に日食の際には、

た。それは天文気象部の顧問であつた、住母家宏先生(物理)の同級生、田島成昌氏(中12)から贈呈されたアルバム。そこには昭和三十二年、南極昭和基地開設の様子やキャビネ版の写真として克明に記録されていた。氏は昭和基地での活躍の他、捕鯨船団に乗り込み、南氷洋(南極海)の気象観測と予報に従事、海上気象学の確立に尽力された。

「めぐせ田島先輩」で私は気象庁へ入庁。残念ながら、田島先輩からご指導を受ける機会も南極へ出向くこともなかったが、氏の二級後輩にあたる、神子敏朗氏(中14)からは、気象大学校の普通課程において「リモートセンシング論」をご講義いただいた。今ではお茶の間でもお馴染みとなつている静止気象衛星「ひまわり」、当時はまだ夢物語。氏は静止衛星のモートセンシング(遠隔測定)である「気象レーダー」への道へと進み、富士山測候所(補注2)などでレーダーの仕事に従事。その経験から成田空港や羽田空港で、航空用の気象レーダー設置に携わることとなつた。成田空港内の航空気象台には、気象庁では数少ない経理(財政)の専門家として活躍された、立花好次氏(中15)が次長でおられた。あるとき、宮内君、第一線の測候所や気象台で活躍するのも良いが、一度は本庁で、全国的視野での仕事をすべきだ。」と叱咤。その後縁



その後も、後輩部員によつて粘り強く継続された気象観測の成果が、気象庁から高く評価され、千葉県北東地域の「区内観測所(甲種気象観測所)」に指定されたことも特筆すべき事項である(補注1)。

あの倉庫に見間違えられそうな、天文気象部の小さな部室に「小さなお宝」があつた。そこには昭和三十二年、南極昭和基地開設の様子やキャビネ版の写真として克明に記録されていた。氏は昭和基地での活躍の他、捕鯨船団に乗り込み、南氷洋(南極海)の気象観測と予報に従事、海上気象学の確立に尽力された。

「めぐせ田島先輩」で私は気象庁へ入庁。残念ながら、田島先輩からご指導を受ける機会も南極へ出向くこともなかったが、氏の二級後輩にあたる、神子敏朗氏(中14)からは、気象大学校の普通課程において「リモートセンシング論」をご講義いただいた。今ではお茶の間でもお馴染みとなつている静止気象衛星「ひまわり」、当時はまだ夢物語。氏は静止衛星のモートセンシング(遠隔測定)である「気象レーダー」への道へと進み、富士山測候所(補注2)などでレーダーの仕事に従事。その経験から成田空港や羽田空港で、航空用の気象レーダー設置に携わることとなつた。成田空港内の航空気象台には、気象庁では数少ない経理(財政)の専門家として活躍された、立花好次氏(中15)が次長でおられた。あるとき、宮内君、第一線の測候所や気象台で活躍するのも良いが、一度は本庁で、全国的視野での仕事をすべきだ。」と叱咤。その後縁

あつて本庁へと異動。予報部においては、洪水予報、航空や海上予報の法令整備、予算要求、報道や国会対策などを。

海洋気象部（現、地球環境・海洋部）では、流水予報を通して、温暖化などの地球環境の仕事に関わるなど、貴重な勉強と経験をすることができた。

時間は前後するが、私の初任地は銚子地方気象台。多田善一（中13）、池端茂（中14）、藤崎浩（高4）の諸先輩がおられて、気象人としてのイロハを厳しく躡っていた。特に、藤崎先輩は匝瑳高校天文気象部の創部に携わり、また銚子六中の恩師、平野鉄三郎先生（高6）も創部当時の部員として活躍されたとお聞きしている。

平成二十年三月、十番目の職場となった岐阜地方気象台を最後に、気象庁を退職。三七七六mの富士山頂から海拔八mの珊瑚礁の孤島まで、四十年余りの気象の仕事は、匝瑳高校天文気象部が基礎となり、伝統ある匝瑳中、匝瑳高の諸先輩のご指導と叱咤に支えられてのことと、改めて感謝の念を深め、お一人おひとりのお顔を思い浮かべつつ筆を納める。

最後に、この雑文は「同窓

さふさ第40号」を手にした直

後、同級で生徒会長でもあった椎名文彦氏からの手紙「同窓さふさ」読んだか。あの部屋健在なり、当時の思い出を投稿すべし」に尻を叩かれ、部活動の一端と、気象庁で活躍された諸先輩の功績とを、思いつくままに書き留める。加えて、在校生や大学生の同級生が、一人でも多く気象庁を、そして南極での活躍を目指し、胸ときめかせられるよう願っている。

宮内 秀（高18）

補注1）区内観測所は、アメダス（AMeDAS:Automated Meteorological Date Acquisition System）の整備に伴って順次廃止された

補注2）富士山測候所は平成二十年十月廃止（自動による気象観測は継続）されて、現在は「NPO法人 富士山測候所を活用する会」が中心となり、多くの研究者が旧測候所を基地として、高所気象学の他、低圧（低酸素）医学、測地学、天文学など、多彩な研究活動を行っている

恩師を訪ねて二〇〇キロ？

二十五回生 有志三人

昭和四十八年三月に匝瑳高校を卒業した三人です。大学も就職先もバラバラだった私たちが、三人とも地元（一人は匝瑳市、二人は多古町）

に住んでいることから、数年前から一緒にゴルフをするようになりました。ゴルフの後、



昭和四十八年三月に匝瑳高校を卒業した三人です。大学も就職先もバラバラだった私たちが、三人とも地元（一人は匝瑳市、二人は多古町）に住んでいることから、数年前から一緒にゴルフをするようになりました。ゴルフの後、

は、いつも酒を酌み交わし、近況報告や高校時代の話で盛り上がりつつありました。そんな中、高校二年生・三年生と担任だった小関恒夫先生の話から、今度ゴルフをしながら訪ねて行こうという事になりました。しばらくは、三人とも事情があつてスケジュー

ルが合わず、実行に移せませんでした。ところが、顔は

三十七年前とほとんど変わっていませんでした。用意したお土産の新米と落花生などをもち、先生の家へお邪魔しました。特に、教え子の作った新米を先生も奥さんも大変喜んで下さいました。先生は教員を定年退職してから、実家であるこの称念寺の住職をしているとのことでした。そして、今ではお子さんも独立し、奥さんと二人で悠々自適な生活を送っているようでした。

こうして一日目は、ほろ酔い？の夢心地の中過ぎて行きました。二日目の朝食時に先生から電話をいただき、予定がなければ観光案内をしていただけるとのことでしたので、すぐにお願いをしました。まずは、先生らしく山梨県立美術館のミレー館に行き、絵画鑑賞をしました。その後、先生の知っているワイナリーへ連れて行っていただき、ワインなどのお土産を買いました。最後は、先生の檀家が経営している食事処で昼食を取りました。私たちが先生の教え子で、千葉県から来たことを話すと、店主は大変驚き、そして喜んでくれました。

あつという間の二日間でしたが、小関先生を訪ねて本当に良かったと思っています。そして、私たち三人にとっては、高校時代の思い出が一ページ増えた旅でもありました。帰り道は、その思い出と先生からいただいたお土産で車も重く感じられました。小関先生、奥さん大変ありがとうございました。

いきました。迷惑な部分もあったと思いますが、機会があれば、また訪ねていきたいと思しますので、重荷にならない程度によりしくお願います。

最後に、同じクラスだった皆さん、今度一緒に小関先生に会いに行きましょう。連絡を待っています。

私たち三人は、大木正俊、畔柳正男、佐久間邦彦でした。以上、恩師を訪ねての旅でした。

同期の集い

中10拾福会

平成二十一年十一月十六日千葉そごう桃源(中華料理店)にて、島田博一君と幹事の渡辺喜久雄の二名での開催でした。
九十歳ともなると、身体都合が悪いらしく限界かなと思っています。

(渡辺喜久雄 中10)

第9回 シニアゴルフ 大会を観て

平成21年10月30日(金)快晴のもとで、高第2回卒の大先輩を筆頭に約百二十名の参加で行われました。場所は香取市にあるグレンオークスカン

トリークラブ(新ベリア方式)で行われました。優勝者は第19回卒岩井和徳さんがクロス82(ネット71.2)

で見事優勝、準優勝にはなんと第2回卒の最高齢の押尾鼎さんがクロス81(ネット71.4)

の見事なスコアで入りました。匠高シニアの頑張りが見えませんでした。

三時過ぎから、表彰式・親睦パーティーと行われ、昔話・近況等の話で最高の盛り上がりで楽しい一日のシニアゴルフ大会となりました。

最後に大会運営に携われた役員の皆様、ご芳志等、協力をいただいた方々には心より感謝いたします。

体育部長 小関 公人(高17)

今回もチャリティ募金、金十二万円を母校に贈呈いたしました。

ここに言う男とは、清水正彦君(中15)のことである。清水は私の一年下の陸上競技部主将となった。十四回生が佐藤亨主将(後の宇野姓)のもとで、全関西の中学陸上大会で優勝した時の唯一の四年生が清水であった。関東の上

に全がついているのは、当時樺太から福井、岐阜、三重ま

校史 日本一をめざした探訪

この東日本全域のことであった。全関西は近畿以西の四国九州、台湾、朝鮮、関東州までのことであった。

昭和十六年の私どもの時には全日本もなければ、東西対抗も中止となり、夢の全国制覇は遂げることができなかった。

ところが翌年東條内閣とな

るや、憧れの甲子園南運動場の全国大会が行われた。その時陸上の専門指導者がいないため、太田末松先生(中1)の指令で私がコーチとして参加することになった。何でも文部省、厚生省も主催団体となり、運賃は半額の大阪までの往復十円であった。勿論急行列車などには乗らず東京を夜立って翌日大阪に着いた。

大阪の宿では中学生だけでなく当時青年教員の選手も一緒であった。

出発に先立って千葉駅まで見送りに来られた伊藤昇先輩(中2)が、私に窓を開けるとい

うので顔を出すと、風呂敷包みに一ぱいの成田の羊かんが入っていた。当時は軍隊以外には手に入らないものが百本も入っており私も驚いた

が、その包みは大阪へ着く前に太田先生に取りあげられ、何のことはない岡部定校長の接待用にされていたのである。

時々清水が試合から帰って来て私に羊かんが食べたいというので、十人の選手で一本か二本の羊かんを分けあって食べた。伊藤先輩は、品村こ

れを選手に食べさせろといっ

てくれたものである。伊藤さんは当時県の業務課に勤めておられ、食品の検査などをしておられ、その縁で羊かん屋とも深い関係があり、選手らのことを思い、準備してくれたものらしい。自ら陸上の選手を経験した上での配慮であったと、今でも目に浮かび有難く思っている。

試合が始まり、清水は二百に低障害で、いきなり日本記録に近いタイムで一位となった。ところが、五百にトラックでのスタートラインを引き間違えて十分に足りなかったというので予選終了の一番あとで再レースをさせられた。その時匝中には陸上の専門家といえは私だけで、抗議をするすべも知らなかった。今思えば供託金(当時30円位)を積んで抗議をすべきだったと思う。十分に短かかったのは主催者の落ち度で選手には何の関わりのない事です。レースそのものはアナウンスで公表されたことでもあり成立している筈で、再レースの必要性は全くないはずである。それが何のはからいもなく再レースとなり、その為各選

手は二次予選準決、決勝と四回ですむところを、清水は五度も走らされたのである。そのための疲労もあって決勝は残念ながら二位にとどまった。この事は清水にとつては生涯の悔いとなり、進路にも強く影響したのである。

その後大東亜戦争となり陸上競技会もなくなり、私も学徒出陣で入隊し約二年間のブランクで昭和二十年九月復員し帰郷すると、大学からお粗末なハガキで、もし帰っているならば十月一日から補修科という特別授業を行うので復学しろというので、親戚の家を頼って上京し、学校に出た。そこには軍帰りの友人たちがいっぱいいて勉強は苦にならなかつた。三月末に終われば、文部省に中等教員の免許申請ができることになった。

三月始めのある日、清水は東京高師(現筑波大)を卒業目前にして私の家に訪ねてきた。

彼はその時、戦前あれだけの記録を残した我々だから、もう一度やり直して日本一を目指そうという話であった。

清水は医者の方に生まれ恵

まれていたが私は農地はとりあげられ食うや食わずの生活で、再び陸上競技の世界に帰ることなど全く考えていなかった。

清水は、日立製作所から母校慶応の教授となつておられた湯浅徹平先輩(中7)を慕い慶応に入り直した。

清水の兄邦彦さん(中12)も慶応出の医師であった。

昭和二十五年千葉市で開催の全日本インターカレッジでも清水は四位入賞と不本意に終わったが、卒業し安田火災に入り当時盛んだった勤労者陸上競技の全国大会で七位二七の記録で優勝し、漸く目標を達成して引退した。あの闘志あふれる清水も亡くなり寂しい。

しかし匝中の先輩方の中からは第一回野村孝治さんの百に走巾跳の千葉県一をはじめ幾多の先輩方が挑戦し続けてきた。野村さんは大学に入りながら脚気のため惜しくも競技を離れ、第二回の飯島正留さん(慶応出)も十秒八まで走つたが全国一には遠かつた。その中でいち早く日本一に輝いたのは湯浅徹平さんであ

る。

昭和九年匝中五年であった湯浅は、甲子園南運動場の全米インターミドルの走巾跳に七位〇二の大会新記録で優勝し僚友藤代一夫の走高跳一位七五の六位、湯浅は二百に二位、円盤投も五位に入り、養生高普(朝鮮)京都一商について総合三位となつた。

これは空前絶後の快挙であった。湯浅は慶応時代百にのほか高障害、走巾跳など、い

朱樺麟さんの娘さん来校

昭和十八年に旧満州国より匝瑳中学に派遣され、一年間留学していた朱樺麟さんの娘さん、朱莉さん御夫妻が四月二日に来校されました。父親が留学してから六十七年後の来校になりました。

杉浦校長先生にお会いしてから同窓会事務局長の岩瀬先生の案内で、西城館の日本文化資料室を見学され、父親の入学が記入されている昭和十八年の教務日誌の「一年三組に朱樺麟、一年四組に包文啓」を感慨深げに見入っておられました。尚通訳を旭市在住で

ずれも日本一の大活躍をして名をあげた。戦後第一回の日米対抗には日本軍主将として活躍され、われわれ後輩一同も応援のため横浜の競技場までかけつけ、雨の中懸命に応援をしたのも懐かしい思い出である。

母校の今は陸上競技も振るわず残念である。先輩たちの偉業をついで大いに奮起してもらいたいと思っている。

品村 晃祥(中14)

娘さんが英語科三年に在学している名智麗子さんをお願いしました。(米本 記)



平成21年度 進路状況

今春の進路状況

今年度の卒業生の進路状況を
お知らせします。

- ① 国立大学合格者は現役46名
過年度卒9名の計55名でした。
② 現役生の私立大学合格者数は
延べ481名で、短大合格者数は
20名でした。
③ 専門学校合格者は24名でした。
④ 就職希望者は公務員合格者が
18名で、民間企業に2名、就
職が決定しています。

国立大学受験者は延べ147名で
合格者が46名ですから、合格率
は31.3%になります。昨年度
は38.5%でした。合格率は若
干下がりましたが、延べ受験者
は30名増加し、本校でも国立
大志向が上昇したようです。
当該学年全体として、進学実
現に向けて色々な取り組みをし
たこと、教員が生徒一人ひとり
に対してきめ細かく丁寧に指導
したこと、最後まで学校を信頼
して、真剣に受験勉強に取り組
んだ生徒が多かったこと等が好
結果の理由として考えられます。
二〇一〇年度センター試験は
理系科目の数学と理科で平均点
が大きく変動しました。

ペネットのデータによる今回
の試験結果の特徴は次のよう
になります。
昨年度と比較して平均点の変
動の大きかった教科・科目は、
数学1A(15.5点減)、化学1
(15.4点減)、地学1(14.1
点増)などとなっています。こ
の結果五教科総合(九〇〇点満
点)の平均点は557.0点で、対
前年度で20.4点下がりました。
九〇〇点満点集計における五

教科受験者の平均点は、6-7文
系557.8点(得点率62.0%、7
7点減)、5-7理系556.5点(得
点率61.8%、29.1点減)と
なりました。また現卒差は、昨
年度の95.6点に対して今年度
は91.5点となっています。
国立大の全国の志願者数は
489,280人で前年から約
1万4千人増加しました。増加の
要因は、18歳人口の減少が一段落
し増加に転じたことに加え、不況
を背景とした受験生の国立大志
向の高まりだと考えられます。個
別の大学の状況は、センター試験
で平均点がダウンした影響もあつ
てか、難関大よりも地方の国立
大で志願者の増加が目立ち、全体的
に受験生の安全志向が感じられ
る出願状況でした。

全国的にはこのような状況でし
たが、本校受験生についてはセン
ター試験の点数が例年と比べても
あまり落ち込むことはなく、かな
り健闘しました。
本校の国立大合格者46名のう
ち文科系(人文科学、社会科学、
理数系を除く教育など)が22名、
理科系(理学、工学、農学、保健
など)が24名でした。
全国的に国立大学への人気は
堅調です。そして不況下にあつて
は、受験生や保護者の国立大志向
は依然強いでしょう。ただし受験
科目の五(六)教科七科目は、現
役生にとって負担が大きいのです。
今後とも国立大学を志望す
る生徒は特に、早目の受験準備を

して欲しいと思います。
これまでで国立大学の試験日
程では後期日程の縮小・廃止に
より、大学受験の至るところが
影響を受けています。国立大
学の今後の試験日程に注意しな
がら、受験者の欠席率が高い後
期日程受験(地方の国立大学を
中心にまだまだあります)まで
粘れば、国立大学合格への可能
性は広がると思われます。実際、
今年度も卒業式後でも受験勉強
を続けるなど、後期試験の準備
に取り組み生徒が目につきました
(前年比減32%)となっています。

た。最後まで諦めないことで
す。(本校の日程別の合格数
は、前期日程29名、後期日程
11名でした。公募推薦による
合格が6名です。)
私立大学では本校の延べ合
格者数は昨年を17名下回りま
した。難関私大の早・慶・上
智は11名(前年比増4)、MA
RCH(明治、青山学院、立教、
中央、法政大学)68名(前年
比増4)、日東駒専(日本、
東洋、駒澤、専修大学)69名
から「MARCH」に志望を切
り換えた受験生も多かったよう
です。「日東駒専」は二〇〇六
年度を底に志願者数は増加を続
けています。

今年度の全国の私立大入試の特
徴は、受験生の地元志向と安全
志向です。東の最難関グループ
「早慶上理」は前年比96.9%
と志願者が減少しました。
代わって志願者数を伸ばした
のが「MARCH」、「日東駒専」
より確実な合格を狙って「早慶」
から「MARCH」に志望を切
り換えた受験生も多かったよう
です。「日東駒専」は二〇〇六
年度を底に志願者数は増加を続
けています。

国立大学

大学名	今年度		昨年度	
	現	浪	現	浪
弘前大	1	2	2	2
東北大	1	1	2	2
宮城大			1	1
秋田大			1	1
山形大	1	2	1	1
福島大	1	1		
茨城大	7	7	8	11
筑波大	4	4	1	1
宇都宮大			1	1
埼玉大	1	2	2	2
千葉大	14	14	13	13
電気通信大	1	2	1	1
東京外大	2	2		
東京芸大	1	1		
東京農工大			1	2
横浜国立大			1	1
新潟大			1	1
山梨大	1	1		
信州大			1	1
静岡大			1	1
名古屋大	1	1		
京大			1	2
鳥取大	1	1		
琉球大	1	1		
国際教養大	1	1		
茨城医大	1	1	1	1
前橋工大	1	1		
高崎経大	2	2		
千葉保健医大	4	4	3	3
首都大	1	1	2	2
横浜市立大	1	1	1	1
都留文科大	2	2		
国立大合計	46	55	45	51

公務員合計	18	18	3	3
民間合計	2	2	5	5
進学準備合計	46	46	45	45

私立大学

大学名	今年度		昨年度	
	現	浪	現	浪
仙台大	1	2	1	1
国際医療福祉大			3	3
自治医大	1	1		
東洋大	1	4	4	4
城西大	2	2	2	2
獨協大	7	14	14	14
獨協教大	6	11	11	11
文京学院大	1	2	2	2
文京海大	7	5	5	5
目黒大	1	2	3	3
神田外語大	12	14	14	14
敬愛大	1	2	2	2
淑徳大	10	10	2	2
城西大	2	2		
聖徳大	7	7	1	1
千葉工大	20	14	15	15
千葉商大	1	2	2	2
中央学大	4	4		
帝京大	9	12	10	10
東京商大	1	1	1	1
東京情報大	5	5	1	1
東京女子大	1	6	6	6
麗澤大	6	6	5	5
和洋女子大	5	5	7	7
千葉科大	5	5	7	7
千徳大	1	2	2	2
徳島大	1	2	2	2
植草学大	1	2	2	2
青山学院大	5	7	7	7
亜細亜大	3	3	4	4
桜美林大	3	3		
大妻女子大	2	2	10	10
学芸大	2	2	4	4
北里大	5	6	7	9
共立女子大	2	2	2	2
杏林大	5	5	2	2
慶應義塾大	1	1	1	1
工学院大	4	4	1	1
国学院大	8	8	3	3
国士大	12	13	4	4
駒澤大	7	10	12	13
実践女子大	3	3	5	5
芝浦工大	4	2	6	4
順天堂大			3	3
昭和医大	1	4	5	
昭和女子大	2	2	2	2
昭和薬大	1	1	2	3
昭和薬大	1	1		
女子大	3	3		
女子大	1	1	1	1
白百合女子大	2	2	1	1
成蹊大	1	1	5	5
成城大	1	1	2	
聖心女子大	1	1		
専修大	10	11	14	14
大正大	4	4	2	2
大東文化大	11	11	10	10
拓殖大	4	4	6	7
大東大	3	3	2	2
五木大	1	3	4	4
多摩大	13	7	20	14
中央大	8	8	2	2
津田大	18	18	14	14
帝京大	8	18	14	14
東海大	17	17	12	13
東洋大	2	1	1	1
東京医大	2	1	3	8
東京工大	3	3	3	3
東京電機大	3	3	5	5
東京農大	3	3	12	12
東京理大	4	2	2	1
東邦大	6	10	2	2
東洋大	12	15	12	13
二松学大	17	5	22	24
日本社会事業大	2	2	2	2
日本女子大	12	12	2	3
日本女子体育大	1	1		
法政大	29	9	38	19
法政大	2	2	2	2
武蔵大	2	2	2	2
武蔵工大	3	3	1	2
武蔵野大	1	1	2	2
武蔵野大			6	6
武蔵野大			1	1
明治大	13	9	22	18
明治大	5	2	7	10
明治大	5	5	1	1
立教大	8	2	10	6
立教大	3	3	6	2
早稲田大	10	3	13	6
学習院大	1	1	1	1
神奈川大	6	1	7	10
神奈川大	1	1	3	3
鎌倉女子大	1	1	2	1
マリアンナ大			1	1
フェリス大	1	1		
金沢大			1	1
京山			1	1
京都大	1	1		
同志社大			1	1
同志社大	2	2		
同志社大	2	2	2	2
関西学院大	1	1		
その私立大	8	17	3	20
私立大合計	481	91	572	49
短大合計	20	20	9	9
留大合計	2	2	2	2
専門学校合計	24	2	26	4



本校の短大合格者数は20名と
増加、これは昨年の倍以上で、
本校については短大人気が盛り
返しました。
専門学校は24名で昨年より1
名の減少、就職は公務員合格者
が18名と昨年度よりも大幅に増
えました。
二〇一〇年度も、生徒の進路
実現に向けて、本校職員、より
一層の努力を続けてまいります。
今後とも皆様のご理解とご協力
をお願いいたします。
(進路指導部長 宮原 実)

おめでとうございます

平成二十二年秋の叙勲

☆旭日双光章

☆瑞宝双光章

斎藤 忠雄さん (高15)
消防功勞

越川 昭さん (中18)

■ 匝瑳市長就任

元八日市場市議・議長

太田 安規さん (高14)

お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局に御連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(平成22年3月31日受付分まで)

《恩師逝く》

土屋 潤先生 (英語)

平成22年1月12日逝去

昭和23年〜52年在職

昭和53年〜54年非常勤講師

松尾町借毛本郷一六六九

萩原 静さん (中8)

平成21年5月21日逝去

花見川区花園三一八一七

越川 一男さん (中9)

平成22年3月24日逝去

横芝光町宮川六〇三九一三

椎名 英夫さん (中11)

平成21年12月26日逝去

横芝光町宮川五三二〇一一

萩原 健治さん (中11)

平成21年7月31日逝去

若葉区貝塚町一一二九一二

渡邊 昌平さん (中11)

平成22年1月8日逝去

美浜区真砂三一六一二一
八〇八

杉本甲子男さん (中13)

平成21年11月15日逝去

文京区小石川五一一〇一九

大木 基司さん (中13)

平成21年7月10日逝去

匝瑳市八日市場イ二八三二

佐藤 信司さん (中14)

平成21年12月逝去

多古町東松崎一九一〇

高後武之助さん (中14)

平成22年2月23日逝去

杉並区高井戸西一七七一三二

田中 四郎さん (中14)

平成22年逝去

文京区小石川三一〇一一

宮負 勉さん (中14)

平成22年1月4日逝去

佐倉市稲荷台四一二〇一一

加瀬茂三郎さん (中14)

平成22年1月4日逝去

旭市蛇園三五一四一二

江波戸 堅さん (中16)

平成21年10月9日逝去

匝瑳市大浦一二六三

長谷 健一さん (中17)

平成21年11月28日逝去

川口市末広三一二一三

中川 進也さん (高2)

平成21年11月4日逝去

茂原市中の島町六四七

遠藤 正さん (高2)

平成22年2月20日逝去

山形県鶴岡市朝陽町二六一

一九

金谷栄次郎さん (高4)

平成20年12月31日逝去

旭市口の三九九

田中 敏枝さん (高8)

平成21年9月24日逝去

東松山市幸町一一一五

林 亮司さん (高9)

平成21年6月13日逝去

船橋市大穴南四一三四一一

岩井 勇さん (高11)

平成21年9月30日逝去

若葉区加曾利町一〇三二一四一

小関 勝利さん (高12)

平成22年2月22日逝去

葛飾区東金町八一四一三

木村 正義さん (高12)

平成21年6月2日逝去

多古町南並木二〇四

成田市吾妻一一三四一五

箕浦 重子さん (高13)

平成21年8月28日逝去

墨田区墨田三一三六一五

三谷 旭さん (高13)

平成21年11月3日逝去

匝瑳市田久保一五三

石井 栄治さん (定夜23)

平成21年9月4日逝去

匝瑳市内山一一六〇

小林 遵子さん (高30)

平成21年11月16日逝去

旭市イの一二九九一三

遠藤 薫さん (高39)

平成21年5月23日逝去

旭市岩井六八二一二

飯田 浩隆さん (高47)

平成21年10月14日逝去

多古町南並木二〇四

お詫言ひたい

前号(40号)の表紙および9ページ掲載の地井武男さんは、「高12」卒ではなく「高13」卒です。

また、5ページ「四街道支部」総会報告の中で講演会のお名前は「正一」ではなく「省一」です。あわせて、同報告の中で詩を吟じられた石田氏のお名前は「寛」

ではなく「賈」です。

それから、7ページの「高7-Fクラス会」の記事中、「今年のなごり」とあるのは「今生のなごり」でした。

慎重に取り扱っているつもりですが誤りが続出してしまいました。謹んでお詫言ひ申し上げ訂正いたします。

終身会費納入者

※平成二十一年十月二十四日から二十二年三月二十四日受付まで

- 〔中十六回〕 古川 秀臣
〔高九回〕 飯田 繁
〔高十回〕 川野 忠
〔定夜五回〕 鈴木 孝典
〔高十二回〕 小田嶋公子
遠藤平次郎
吉野 郁子
渡辺 一生
〔高十三回〕 竹蓋 勝子
萩本 洋
〔高十四回〕 齊藤 莞爾
〔高十五回〕 笠井 怜美
柴田 麻男
〔高十六回〕 伊藤 民雄
布施 忠
〔高十七回〕 飯島 祥邑
大木はる子
〔高十八回〕 実川 良子
越川 淑枝
〔高十九回〕 古仲 紀子
伊藤 剛
秋葉 美江
〔高二十回〕 加瀬 武敏
森島 京子
〔高二十一回〕 齊藤富美子
吉野 節子
〔高二十二回〕 牧野 博子
高梨 智
原田 典子
〔高二十三回〕 土屋 澄10
並木 良雄2
〔高七回〕 鎌形 邦男10
〔高八回〕 八本 輝2
〔高十一回〕 加治屋豊子5
内藤扶桑男5
〔高十二回〕 片山 貴之
〔高十九回〕 伊藤奈穂美
佐藤有里子
〔高五十一回〕 渡邊 真希
〔高五十二回〕 栗田 桂輔
〔高五十四回〕 岡野 浩幸
〔高五十六回〕 五木田直也
〔高三十六回〕 椎名 真理
〔高三十七回〕 畔蒜干枝子
宇野 秀
菅谷 明江
〔高三十八回〕 加瀬 賢一
柴田 純子
〔定夜三十七回〕 実川 操
〔高四十五回〕 浪川 彰
〔高四十六回〕 片山 貴之
〔高四十九回〕 伊藤奈穂美
佐藤有里子
〔高五十一回〕 渡邊 真希
〔高五十二回〕 栗田 桂輔
〔高五十四回〕 岡野 浩幸
〔高五十六回〕 五木田直也
〔高十六回〕 林 啓司5
〔高十六回〕 佐藤 正10
大塚百合子10
服部 俊弘10
平山 紀雄10
〔高十七回〕 大木 行男1
林 鋭夫1
〔高十八回〕 岩崎 悦子5
土屋 洋子10
芝野 武彦10
絵鳩 寛10
渡辺 孝俊10
〔高十九回〕 金杉 邦彦5
実川 好敏10
〔高二十回〕 泉川 伸子10
伊知地良洋1
大久保隆章3
香取 克男5
平山 栄子10
大木 泰枝3
宮田 信二5
〔高二十一回〕 菅谷 実3
〔高二十二回〕 松田 範子10
〔高二十三回〕 内貴喜一郎5
〔高二十四回〕 山本まゆみ5
松村 光雄10
〔高二十五回〕 穴澤 和子5
田中 英子5
〔高二十六回〕 中村 正平10
及川 博1
鍋木 友孝1
日色 錦次5
〔高二十七回〕 伊藤 進3
江澤由美子5
栗野 智10
〔定夜二十回〕 土屋喜久枝5
〔高二十七回〕 林 秀直10
〔高二十八回〕 伊藤 正好5
勝又 好美1
渡辺 浩子10
〔高三十回〕 高橋 孝二1
山本 和弘5
〔高三十一回〕 江波戸恵子5
〔高三十二回〕 安藤 正彦1
加瀬 勝美10
梅田 勝之5
〔高三十四回〕 越川 幸子1
〔高三十五回〕 伊藤 寿洋5
〔高三十六回〕 金子 和仁10
林 暁彦1
〔高三十八回〕 大川信一郎1
佐藤 鈴子5
〔高三十九回〕 石見 輝男5
〔高四十回〕 佐藤まゆみ10
崎山 博之1
〔高四十一回〕 大川 優1
遠藤 正和1
〔高四十三回〕 芦田 優子5
〔高四十四回〕 石橋 康1
山田 英樹5
〔高四十六回〕 石橋 祥光3
八木 幸生10
〔高四十七回〕 石井 久子5
伊東三佳子5
〔高四十九回〕 石毛 真志10
〔高五十回〕 鶴田 花子5
〔高五十一回〕 林 禎和1
〔定夜四十五回〕 村山 利典10
〔高五十二回〕 宮内 佑実〇
〔高五十三回〕 田原美美子1
鳴海賢太郎10
〔高五十四回〕 伊藤 大輔5
椎名謙一郎3
〔高五十五回〕 市原久美子5
上原 昌也5
大家 朋之1
〔高五十六回〕 大塚 友希10
実川 啓明3

年会費納入者

※平成二十一年十月二十四日から二十二年三月二十四日受付まで
※名前下の数字は納入していただいた年数を示します。

- 〔高二回〕 湊川 達5
〔高六回〕 椎名善治郎5
土屋 澄10
並木 良雄2
〔高七回〕 鎌形 邦男10
〔高八回〕 八本 輝2
〔高十一回〕 加治屋豊子5
内藤扶桑男5
〔高十二回〕 片山 貴之
〔高十九回〕 伊藤奈穂美
佐藤有里子
〔高五十一回〕 渡邊 真希
〔高五十二回〕 栗田 桂輔
〔高五十四回〕 岡野 浩幸
〔高五十六回〕 五木田直也
〔高十六回〕 林 啓司5
〔高十六回〕 佐藤 正10
大塚百合子10
服部 俊弘10
平山 紀雄10
〔高十七回〕 大木 行男1
林 鋭夫1
〔高十八回〕 岩崎 悦子5
土屋 洋子10
芝野 武彦10
絵鳩 寛10
渡辺 孝俊10
〔高十九回〕 金杉 邦彦5
実川 好敏10
〔高二十回〕 泉川 伸子10
伊知地良洋1
大久保隆章3
香取 克男5
平山 栄子10
大木 泰枝3
宮田 信二5
〔高二十一回〕 菅谷 実3
〔高二十二回〕 松田 範子10
〔高二十三回〕 内貴喜一郎5
〔高二十四回〕 山本まゆみ5
松村 光雄10
〔高二十五回〕 穴澤 和子5
田中 英子5
〔高二十六回〕 中村 正平10
及川 博1
鍋木 友孝1
日色 錦次5
〔高二十七回〕 伊藤 進3
江澤由美子5
栗野 智10
〔定夜二十回〕 土屋喜久枝5
〔高二十七回〕 林 秀直10
〔高二十八回〕 伊藤 正好5
勝又 好美1
渡辺 浩子10
〔高三十回〕 高橋 孝二1
山本 和弘5
〔高三十一回〕 江波戸恵子5
〔高三十二回〕 安藤 正彦1
加瀬 勝美10
梅田 勝之5
〔高三十四回〕 越川 幸子1
〔高三十五回〕 伊藤 寿洋5
〔高三十六回〕 金子 和仁10
林 暁彦1
〔高三十八回〕 大川信一郎1
佐藤 鈴子5
〔高三十九回〕 石見 輝男5
〔高四十回〕 佐藤まゆみ10
崎山 博之1
〔高四十一回〕 大川 優1
遠藤 正和1
〔高四十三回〕 芦田 優子5
〔高四十四回〕 石橋 康1
山田 英樹5
〔高四十六回〕 石橋 祥光3
八木 幸生10
〔高四十七回〕 石井 久子5
伊東三佳子5
〔高四十九回〕 石毛 真志10
〔高五十回〕 鶴田 花子5
〔高五十一回〕 林 禎和1
〔定夜四十五回〕 村山 利典10
〔高五十二回〕 宮内 佑実〇
〔高五十三回〕 田原美美子1
鳴海賢太郎10
〔高五十四回〕 伊藤 大輔5
椎名謙一郎3
〔高五十五回〕 市原久美子5
上原 昌也5
大家 朋之1
〔高五十六回〕 大塚 友希10
実川 啓明3



同窓会 入会式

三四五名が新会員に

同窓会入会式が全日制は三月五日の卒業式予行後、定時制は卒業式終了後に行われ、三四五名を本会会員として迎えることになった。新幹事九名も委託された。
クラス幹事氏名
A 橋本 恭平
B 杉田由布子
C 鶴澤 拓哉
D 平川 雄大
E 掛果沙奈恵
F 向後 勇輝
G 栗原 絵里
H 高木 崇光
P 諏訪 敬子

三六〇名が入学

入学式が四月七日に挙行され、三六〇名が入学した。
普通科 二四三名
理数科 四〇名
英語科 四〇名
全日制計 三二三名
定時制 三七名
合計 三六〇名

母 校 今 春 の 人 事 異 動 一 覧 表

年齢は平成22年3月31日現在

転入	No	氏名	教科	H 21 年 度 勤 務 校		備考	
	1	横塚正充	教頭	企画管理部県立学校改革推進課副主幹		銚子市	
	2	藤井久弥	国語	県立銚子商業高等学校		旭市	
	3	田村和昭	社会	県立八街高等学校		山武市	
	4	木内俊夫	数学	県立銚子高等学校		匝瑳市 高33	
	5	佐々木輝彦	理科	県立成田北高等学校		印旛郡栄町(物理)	
	6	木本誠也	理科	初任(東邦大学理学部)		佐倉市(化学)	
	7	菅生隆	英語	市立銚子高等学校		旭市	
	8	木村雅浩	英語	山武市立成東東中学校		東金市	
	9	石田典子	養護	市立銚子高等学校		銚子市	
	10	高木淳一	実習助手	初任(県立銚子高等学校・九十九里高等学校)		東庄町 東京学館卒	
	11	宮木真貴	英語	臨任(県立銚子高等学校)		銚子市	
	12	西川裕一	理科	非常勤講師(8)			
	13	小川淑子	主査	県立八街高等学校			
	14	行木利雄	教頭	県立銚子商業高等学校(定)		匝瑳市 高28	
	15	小原好子	国語	県立銚子商業高等学校		銚子市	
	16	高山茂明	社会	県立多古高等学校		旭市	
	17	多田和	家庭	非常勤講師		神栖市	
	18	佐藤敏子	主査	県立成田西陵高等学校		香取市	
転出及び退職	No	氏名	職名	教科	在年	転出先	備考
	1	吉松秀一	教諭	英語	1	退職(再任用)	
	2	平野幸久	教諭	社会	1	退職(再任用)	
	3	宇井光二	教諭	英語	3	退職	
	4	増田佳枝	実助		7	退職	
	5	猿渡末治	教頭		3	県立銚子商業高等学校(定)	副校長
	6	齋藤義弘	教諭	国語	9	市立銚子高等学校	
	7	金子麻理子	教諭	社会	6	県立佐原高等学校	
	8	越川和弘	教諭	数学	10	県立佐原白楊高等学校	
	9	加瀬茂	教諭	理科	10	県立幕張総合高等学校	
	10	藤枝進	教諭	体育	1	県立小見川高等学校	再任用
	11	高山健太郎	教諭	英語	10	県立一宮商業高等学校	
	12	井村幸男	教諭	英語	1	県立東金商業高等学校	再任用
	13	堀口光	講師	理科	1	県立小見川高等学校	新規採用
	14	田中和雄	講師	体育	1	県立銚子高等学校	非常勤講師
	15	鎌形栄一	主査		4	県立香取特別支援学校	
	16	鈴木良宣	副主査		5	神崎町立神崎中学校	
	17	石原修	教頭		3	県立大多喜高等学校	
	18	子安信貴	教諭	国語	10	県立佐原高等学校(定)	
	19	佐藤正純	教諭	社会	3	県立安房高等学校	
20	楯田真奈美	講師	家庭	1	県立旭農業高等学校		

《第41号編集委員》

馬淵 英夫 (高10)	品村 晃祥 (中14)	平山 武彦 (高7)	綿貫ひろ子 (高8)	米本 雅男 (高10)	富澤 汎子 (高11)	川口 克己 (高15)	岩瀬 道治 (高24)	川口 明和 (高17)
-------------	-------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

(会長/高17)

「さふさ」第41号をお届けします。

この号の編集・割り付けの作業中は校内の桜がちょうど満開でした。フロントページの写真で少しでもその雰囲気を感じていただければ幸いです。

また、前号の部室の写真から天文気象部OBの投稿記事が届き、編集委員一同、喜んでおります。

さらに、「恩師をたずねて」などの投稿記事も歓迎いたします。

皆さまからの原稿をお待ちしています。

編集後記